



藍原 章 議員

問 社会的孤立者を支援につなげるための手立てはどうか。

答 健康福祉部長

市の各部署や福祉関係団体・事業所と連携して包括的に支援しています。また、表面化しない事案は民生委員児童委員、社会福祉協議会の生活支援コーディネーター等と連携して、保健師による家庭訪問などのアウトリーチ支援の取り組みも始めております。



高島市の「社会的孤立防止対策」の取り組みについて

問

高島市の「8050問題」や介護と育児のダブルケア等、「社会的孤立防止対策」の取り組みについて

答

複合化・多様化する困りごとを共に支えあう体制づくり、地域づくりの取り組み「地域生活つむぎあいプロジェクト」を関係機関との連携により進めます。

問 社会的孤立者を支援する人材の確保・育成についてはどうか。

答 健康福祉部長

まずは、個別相談支援機関で相談者にしつかりと寄り添い、丁寧に聞き取ることが大切です。その上で、相談支援職員の資質向上に努めながら居場所づくりなどの社会参加を支援する取組が重要ですので、各関係機関と共同に、こつとした分野の支援者や人材の育成に取り組んでまいります。

問 「地域共生社会の実現に向けた取組の現状」はどうか。

答 健康福祉部長

地域生活つむぎあいプロジェクトでは、3つの会議体を設置し取り組みを進めています。①地域生活つむぎあい会議では17の関係機関と意見交換し連携を進めています。②庁内連携つむぎあい会議では、市役所庁内の30部署が連携し課題解決に向けたツール「つむぎあいシート」を用いて連携強化を図っています。③くらし連携会議では、中学校圏域ごとに専門職の連携の

場を設置し、その地域が抱える課題の解決に取り組んでいます。複合化・多様化する困りごとを他人事ではなく、わが事として捉え、共に支え合う、地域づくりの取り組みを進めてまいります。

問 居場所づくり、社会参加支援にはどのような取り組みがあるか。

答 健康福祉部長

社会福祉法人に委託している「就労準備支援ホップ」や、社会福祉法人の自主事業「誰もが参加できる社会的居場所虹カフエ」など、孤立感を感じている方々が気軽に社会参加できる場所づくりが行われています。

その他の質問

○高島市の「空き家対策」の取り組みについて